防　除　第　３９　号
令和８年 10 月 22 日

各　位

三重県病害虫防除所

令和８年度病害虫発生予報第６号

このことについて、下記のとおり発表します。

担当　三重県病害虫防除所
TEL　0598-42-6365　FAX 0598-42-7568
E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

Ⅰ　予報の概要

農作物名	病 害 虫 名	発生量 （平年比）
カンキツ	ミカンハダニ	平年並
チャ	カンザワハダニ	やや少
トマト	疫病	平年並
イチゴ	うどんこ病	平年並
	炭疽病	平年並
	ハダニ類	平年並
ハクサイ	白斑病	平年並
キャベツ	黒腐病	平年並
ネギ	ネギコガ	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多
野菜共通	コナガ	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多

Ⅱ 予報

巡回調査：10 月 1 日から 10 月 7 日

カンキツ

1 ミカンハダニ

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率０％（平年 3.4％）と少、寄生虫数０頭／葉（平年 0.12 頭／葉）と少　（－）

2) 県予察ほ（御浜町、10 月上旬、興津早生）では、100 葉当たり寄生虫数は無防除区で 13.3 頭（平年 30.3 頭）と少、慣行防除区で０頭（平年 112.9 頭）と少　（－）

3) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 1 葉当たりのハダニ成虫数が、0.5 頭から 1.0 頭程度確認されたら、薬剤防除をしてください。

2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。

3) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

チャ

1 カンザワハダニ

(1) 予報内容　発生量：やや少

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率 0％（平年 1.8％）と少、寄生頭数 0 頭／葉（平年 0.04 頭／葉）と少　（－）

2) 県予察ほ（亀山市、9 月中旬から 10 月上旬）では、寄生葉率 0％（平年 2.1％）と少、寄生頭数 0 頭／葉（平年 0.20 頭／葉）と少　（－）

3) 一般ほ場では、発生量はやや少　（－）

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

5) 現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息しているので、丁寧に薬剤散布をしてください。

2) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

トマト

1 疫病

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0%（平年 0%）と平年並　（±）

2) 一般ほ場では、発生量は平年並（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病徴の進展が非常に早いので、発生を確認した場合には集中的に薬剤散布をしてください。

2) 20℃ぐらいの温度で多湿条件の時に発生が多くなります。

3) 病原菌は被害植物の残渣とともに土中に残り、伝染源となります。発病株はほ場外に持ち出して適切に処分してください。

イチゴ

1　うどんこ病

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0%（平年 0%）と平年並　（±）

2) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) ビニールの被覆後、発生が増加します。

2) 予防防除に重点をおいて薬剤散布をしてください。

3) 発病を認めたときは、葉裏に薬液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除をしてください。

2　炭疽病

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0%（平年 0.2%）と少　（－）

2) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並（概して平年並）　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 感染した苗は、本ぽ定植後に発病します。

2) 発病株はほ場外へ持ち出して適切に処分してください。

3　ハダニ類

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、寄生株率０％（平年 2.0%）と少、発生程度０（平年 0.7）と少　（－）

2) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 天敵を利用する場合は、発生密度の低いうちに導入し、農薬は天敵への影響を考慮して使用してください。

2) 薬剤防除は、発生を確認したら、できるだけ早期に実施してください。

3) 薬剤がかかりやすくするため下葉を除去し、葉裏まで丁寧に散布してください。

4) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

ハクサイ

1　白斑病

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0%（平年 0.0%）、発病程度 0（平年 0.0）と平年並　（±）

2) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 秋から初冬にかけて、雨が多いと多発する傾向があります。

2) 肥料切れすると発病を助長します。

3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。

キャベツ

1　黒腐病

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率０％（平年 1.3%）、発病程度０（平年 0.5）といずれも少　（－）

2) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 一般ほ場の結果から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 土壌中の病原菌が雨滴で葉に飛散し、感染します。大雨後や特に冠水したときは、速やかに薬剤防除をしてください。

2) 翌年の伝染源となるので、発病株はほ場外に持ち出して適切に処分してください。

ネギ

1　ネギコガ

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、被害葉率 0%（平年 0.2%）と少　（－）

2) 一般ほ場では、発生量は少から平年並　（概して平年並）　（±）

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

4) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため、発生初期から防除をしてください。

2　シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容　発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、青ネギの被害葉率 12.5%（平年 9.2%）とやや多　（＋）

2) 県予察ほフェロモントラップ（松阪市、9 月第 3 半旬から 10 月第 2 半旬）では、誘殺数 461 頭（平年 331.0 頭）とやや多　（＋）

3) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並（概して平年並）　（±）

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病害虫防除技術情報第５号（令和８年８月 21 日発表）を参考にしてください。

2) 若齢幼虫から葉の内部に侵入し、内側から表皮を残して食害します。

3) 老齢幼虫ほど薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。

4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

野菜共通

1　コナガ

(1) 予報内容　発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、キャベツの寄生株率 0%（平年 0.2%）で少、ハクサイの寄生株率 0%（平年 0.02%）とやや少　（－）

2) 県予察ほフェロモントラップ（松阪市、9 月第 3 半旬から 10 月第 2 半旬）では、誘殺数５頭（平年 8.4 頭）とやや少　（－）

3) 一般ほ場では、発生量は平年並　（±）

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

5) 一般ほ場の状況から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 冬でも生育を続けて加害します。

2) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

2 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容　発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、冬キャベツへの寄生株率 0.4%（平年 4.2%）と少、ハクサイの寄生株率 0%（平年 3.3%）と少　（－）

2) 県予察ほフェロモントラップ（松阪市、9 月第 3 半旬から 10 月第 2 半旬）では、誘殺数 3,318 頭（平年 2,610.7 頭）と多　（＋）

3) 一般ほ場では、発生量は平年並からやや多（概して平年並）　（±）

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想　（＋）

5) 現状の発生量は平年並と考えられますが、県予察ほフェロモントラップ及び今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病害虫防除技術情報第９号（令和８年 10 月９日発表）を参考にしてください。

2) 老齢幼虫ほど薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。

3) 新芽部を食害されると、生育や収量への影響が大きいので、適期防除に努めてください。

4) 施設ではハウスのパイプや換気口周辺などの資材にも産卵するので、注意してください。

Ⅲ 気象予報

東海地方１か月予報（令和８年 10 月 15 日 名古屋地方気象台発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう１か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう１か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

１週目 10 月 17 日～23 日	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
２週目 10 月 24 日～30 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
３～４週目 10 月 31 日～11 月 13 日	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

Ⅳ　その他

・本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001257461.pdf

・予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm